

熊本城 復興に向けて

〈24〉みんなの熊本城

築城から今日に至るまで、熊本城は壮大な姿で受け継がれていますが、その道のりは平易なものではありませんでした。度重なる災害を経ても、何度も修復を繰り返し、多くの歴史を刻みながら現在に至っています。その過程や痕跡も熊本城の価値であり、私たちの財産でもあります。

3年前の地震によって熊本城は大きな被害を受けました。夜間の被災であったため人的被害がなく、救助や捜索による二次崩壊を免れたことにより、しっかりと被害調査を行い復旧への準備を進めることができました。数週間後には、県内外から多くの方々が訪れるようになり、被災した姿を呆然と見つめる人や写真を撮る人が多い中、涙を流す人や手を合わせて拝む人も見られ、熊本城に対する想いの深さを改めて感じました。

多くの市民にとっては、小さな頃から遠足やスケッチ大会、二の丸広場でのイベント、初詣や七五三など生活の中で熊本城に何らかの関わりや思い出があります。街中やバス・電車からよく見る熊本城の姿は市民にとって当たり前の景観であり、テレビ・新聞・本・雑誌・ポスターなどでも「熊本の象徴的な景観」として至る所で見掛けます。今回その景観を失いかけたことは大きな衝撃で、多くの方々から復旧復興への期待の声と支援をいただいています。復興城主の申し込みも10万件を超えました。

現在、復旧基本計画に基づき、復興のシンボルである天守閣の早期復旧とともに、石垣や建造物などの文化財価値の保全と計画的復旧を進めています。また、熊本城の復旧過程の公開・活用を図り、観光資源としての早期再生を図るとともに、震災の記憶を次世代に語り継いでいく観点からも、長期的な視点に立ち、復旧と並行して「100年先を見据えた礎づくり」にも取り組んでいます。



▲二の丸広場から大天守鯉瓦の取付けを見守る市民(平成30年4月)



▲来年春の完成を目指す特別見学通路(完成予想図)

そのため毎月開催の講座「熊本城学」、毎年刊行の『復興熊本城』、お城まつりでの展示・説明会、講演や現地体験会などのほか、「みんなの熊本城」プロジェクトとして、ワークショップやオープンハウスなども開催して、市民の皆さんから幅広い意見をいただき、市民協働での復興を目指しています。

今年の秋には大天守の外観工事が完了し、特別公開が始まります。さまざまな機会に熊本城を訪れ、復旧復興が進んでいることを実感してください。そして末永く熊本城をご支援くださいますようお願いいたします。【完】

(熊本城調査研究センター 網田 龍生)